

米の輸出拡大に向けた 産地会議資料

令和8年2月5日（水）

北海道農政部食の安全・みどりの農業推進局食品政策課

農畜産物等の輸出の現状について

◆農畜産物等の輸出の現状(令和7年)

- 令和7年の農畜産物等の輸出額は65.68億円で、近年増加
- ながいもについては、品質が良く、単価も高く、ここ数年概ね堅調に推移
- 米については、海外での日本食ブームの浸透等により増加傾向
- ミルク・クリームやチーズについては、販売促進の効果などにより概ね堅調に推移
- 豚肉については、府県での豚熱の発生により道産の引き合いが強く、概ね堅調に推移
- 牛肉については、外食需要の高まりなどにより、概ね堅調に推移
- たまねぎについては、高温により収量が少ないことなどにより近年低位に推移
- その他については、鶏卵等が伸びたことによる増

◆本道の農畜産物の輸出額・輸出数量の推移(道内港分)

(単位:t、百万円)

品目名	令和5年		令和6年		令和7年		R7年対前年増減額
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	金額
ながいも	3,883	1,705	3,647	1,583	3,865	2,057	474
米(精米・玄米)	4,741	1,032	5,452	1,289	5,539	1,489	200
ミルク・クリーム	3,348	869	3,647	997	3,489	1,038	41
バター・チーズ	7	14	9	23	44	70	47
豚肉	744	747	725	615	752	798	183
牛肉	74	392	87	418	84	449	31
たまねぎ、ねぎ属	3,606	305	1,899	180	205	21	▲159
日本酒	28	60	45	88	64	84	▲4
その他	947	319	1,143	412	1,319	456	44
道内港合計	17,350	5,443	16,609	5,605	15,297	6,462	857
アイスクリーム	—	—	—	—	83	106	—
道内港合計(アイスクリーム含む)	—	—	—	—	15,379	6,568	
(参考) 道外港推計値	—	10,047	—	調査中			
(参考) 合計	—	15,490	—	調査中			

注1: 令和7年よりアイスクリームを農畜産物等に計上している。注2: 日本酒については数量単位がklのため数量合計に含まない。資料: 財務省「貿易統計」 1

■ 食の輸出を取り巻く社会経済情勢

- ①世界における食の市場規模の拡大
- ②中国等による日本産水産物の輸入停止措置など国際情勢
- ③輸出先国・地域の多角化の進行
- ④食料安全保障を柱の一つとする「食料・農業・農村基本法」の改正
- ⑤新型コロナウイルス感染症5類移行後のインバウンドの回復

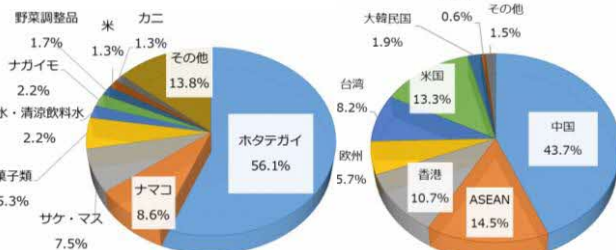
■ 食の輸出の現状と課題

<現状>

- ①中国の輸入停止措置以降、アメリカやタイ、ベトナムなど、輸出先国・地域の多角化が着実に進行。
- ②2023年の道内港の輸出は、ホタテガイの割合が前年の約63%から56%となったものの、依然として高く、輸出先国・地域も中国、香港、台湾が約63%と偏りがある状況。

【輸出額の品目別の割合】

【輸出額の輸出先国・地域別の割合】



※出典：いずれも財務省貿易統計

【道産食品の輸出額の推移】



※出典：財務省貿易統計

<課題>

- ・国内への食料供給能力の確保と安定した輸出体制の確立
- ・特定品目や地域に偏らない施策の展開によるリスク分散
- ・輸出先国・地域の輸入規制への対応
- ・計画的な生産を継続するための安定的な原材料確保
- ・小ロットに対応した商流・物流網の整備
- ・ブランドの維持・向上と新市場の獲得
- ・海外の販路拡大に挑戦する担い手の育成
- ・生産者、産地を伝える安心感と信頼感の醸成
- ・現地の食文化や、環境・健康志向などの多様なニーズを踏まえた付加価値の高い商品開発 等

■ 策定の趣旨

輸出を取り巻く環境の変化や輸出実績・課題などを踏まえた特定の品目に偏らないリスク分散に対応した取組を進め、北海道ブランドの浸透や市場の拡大に弾みをつけるとともに、輸出も含めた食料の供給能力の維持を図り、北海道の食の輸出をさらに成長させ、道内食関連産業の持続的な発展を図る。

■ 重点国・地域

中国、香港、台湾、ベトナム、タイ、韓国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、アメリカ、ロシア、欧州、大洋州

■ めざす姿

北海道が誇る食の魅力や価値のさらなる向上と世界への展開

■ めざす姿を実現する5つの基本戦略

- I 生産の安定化**
食料安全保障の観点から踏まえた、生産基盤の維持・強化と高品質な一次製品の安定供給
- II 商流・物流網の整備**
中小・小規模事業者による輸出促進と道産食品を効率的な輸送により現地に届ける取組の推進
- III 北海道ブランドの浸透・市場拡大**
訪日外国人を含む海外への北海道の食ブランドの確立と活用による販路拡大、輸出先国・地域の多角化
- IV 人材育成・輸出支援体制の強化**
輸出に取り組む意欲ある担い手の育成と新市場に挑戦する事業者のサポート体制の強化
- V 輸出品目の拡大・高付加価値化の推進**
海外マーケット向けの輸出品目の拡大及び現地ニーズや食文化を踏まえた付加価値の高い商品づくりの推進

■ 目標水準（推進期間：2024年～2028年）

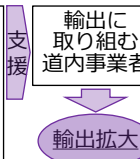
目標水準：道産食品輸出額 1,650億円

品目の拡大と輸出に取り組む事業者の意欲の向上につなげるためのモニタリング指標
○新たに輸出に取り組む事業者数及び商品数

■ 推進体制

- ・本戦略に基づき、道内事業者の輸出に向けた取組をオール北海道で支援
- ・安定した輸出に向け、生産情報等を共有

- 北海道地域農林水産物等輸出促進協議会・道産食品輸出拡大会議(国・道・関係機関等で構成)
- 道や金融機関等の海外拠点
- 輸出相談窓口
(JETRO北海道、北海道農政事務所等)
- 道産水産物消費拡大・商流対策検討プロジェクトチーム(国・道で構成)



■ 基本戦略の展開方向

- I 生産の安定化**
 - 農業生産基盤の維持・強化や計画的な生産促進
 - 北海道地域農林水産物等輸出促進協議会における生産情報等の共有
 - 食品加工事業者等が行う設備投資への支援 等
- II 商流・物流網の整備**
 - 輸送ロット確保及び輸送効率化のための小口混載などの取組推進
 - 鮮度保持・品質保持技術の開発・導入
 - 地域商社の活性化による商流構築の強化 等
- III 北海道ブランドの浸透・市場拡大**
 - 安全安心、健康等に配慮した商品開発及びPR
 - 訪日外国人への商品PR・販売促進
 - どさんこプラザを活用したマーケティング支援
 - ASEAN、欧州、アメリカなど販路の多角化支援 等
- IV 人材育成・輸出支援体制の強化**
 - 道産食品輸出塾による、オンライン商談会やECの取組支援
 - ジェトロや関係機関と連携したサポート体制の充実 等
- V 輸出品目の拡大・高付加価値化の推進**
 - 新たな輸出品目発掘に向けた取組、現地ニーズを捉えた商品開発
 - 水産加工施設の機械化促進など加工体制の強化に向けた支援
 - 地域フード塾による付加価値の高い商品づくりの支援 等

■ 主要品目の展開方向

米	輸出用米の作付拡大、長期輸送保存に優れた包装実証、寿司など食べ方と合わせた普及 等
日本酒	国際評価向上に向けた取組の促進、海外展開する和食店等との連携強化 等
青果物	産地における輸出体制の高度化の促進、長期貯蔵や長期出荷が可能となる技術の導入 等
牛肉	アジア圏、米国及びEUにおける認知度向上に向けた取組促進 等
牛乳・乳製品	アジア圏における認知度向上、賞味期限の延長や鮮度保持輸送体系の構築による価格競争力の強化 等
ホタテガイ	中国以外への販路の拡大、国内外の仕向けは生産量の半数程度を適正バランスとしつつ、加工体制強化を進め、玉冷等製品輸出を促進 等
サク・マス	稚魚の飼育環境の改善や放流技術の改良、日本発の水産エコラベル「MEL」の活用 等
ブリ	他県産との差別化など戦略的プロモーションの実施 等
カレイ類	現地ニーズを捉えた製品開発、商談会やプロモーションの推進等
菓子類	専門家のアドバイスによる商品開発への支援、海外バイヤー向け商談会 等
機能性食品	専門家や研究機関による商品開発支援、ヘルシーD o 認定商品のPR及び販路拡大 等
アルコール飲料(日本酒以外)	GIを活用した道産ワインの知名度向上とブランドの確立、酒と食とのペアリングなど新たな付加価値の創出 等

令和7年度の主な取組

目的

「北海道食の輸出拡大戦略<第Ⅲ期>」に基づき輸出拡大を図るため、戦略的なプロモーション活動や産地支援、インバウンド対策等に総合的に取り組む。併せて、関係団体等と連携して、アジア諸国等における販路開拓に取り組むほか、輸出先国の基準に対応した施設整備等を支援する。

道産農畜産物海外販路拡大産地づくり支援事業【R7予算額42,391千円(うち道費22,378千円)】

○国内外の需給状況や国際情勢などを踏まえ、輸出体制の確立に向けた産地支援の取組や、海外実需者(外食産業等)を対象としたプロモーション等を実施するとともに、品目横断的に効果的なインバウンド対策等に取り組むことで相乗効果を図る。

【コメの輸出拡大に向けたセミナー】

日時: 令和7年12月17日(水)
場所: 赤れんが庁舎2階ホールB
内容: 残留農薬対策、地域ブランド、施設整備など輸出産地確立に向けた情報提供・意見交換を実施。参加者から有意義だったとの意見。



【カンボジアのカフェでの試飲調査】

日時: 令和7年11月17日(月)～30日(日)
場所: プノンペン市 Sorry Caffee
内容: カフェで北海道産牛乳を使ったメニューを開発し、試飲及びアンケートを実施。道産牛乳製品に対する好意的な意見が多く聞かれた。



道産農水産物輸出拡大戦略推進事業【R7予算額2,461千円(うち道費2,461千円)】

○北海道農畜産物・水産物輸出推進協議会(※)が、北海道ブランドを最大限に生かしたプロモーション活動等を展開

【第10回“日本の食品”輸出EXPOへの出展】

日時: 令和7年7月9日(水)～11日(金)
場所: 東京都江東区 東京ビッグサイト
内容: 北海道産のLL牛乳やクリームチーズなどの試食を行うとともに、北海道ブランドを生かした農畜水産物のPRを実施

(※)ホクレン、ぎょれん、JA北海道中央会、JETRO北海道、北海道で構成



輸出対応施設等整備事業【R7予算額910,743千円(うち道費0千円)】

○国費を活用し、食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備に必要な経費に対して助成